

生産技術と品質の確立を掲げ

顧客に満足していただける塗料を提供

茨木塗料 株式会社

茨木塗料株式会社



茨木塗料 株式会社

代表取締役：柴田 浩行 氏
 本社：大阪府茨木市南春日丘3-1-60
 設立：1969年5月30日
 社員数：90名
 事業内容：油性・水性各種塗料及び
 インキ製品等の製造



姫路工場



柳井工場

創業以来、塗料・インキ関係の製造をしてきた茨木塗料(株)。自社製品を持たず、受注生産専門の事業形態に特化し、少量多品種製造を得意としている。顧客から要求される製品を安定的に供給するために、製造技術および生産システムの向上に努め、安全で信頼される会社を目指している。今回は、代表取締役の柴田浩行氏に創業の歴史、現場の改善活動や塗料づくりに対する思いをお伺いしました。

— 創業のきっかけ、

化学品製造機械メーカーからの独立

当社は、1954（昭和29）年6月に塗料やインキ、その他の化学品製造機械メーカーである浅田鉄工株式会社の塗料製造研究部門から独立し、茨木塗料研究所として、浅田耕男氏が発足したのがはじまりです。初代社長 浅田耕男氏は浅田鉄工株式会社の初代社長と姻戚関係にあり、塗料やインク専用の攪拌機や分散機を共同でつくっていたと聞いています。その機械の製造を担当する傍ら、塗料の開発を進めていたそうです。独立後は仕事がなく、各塗料メーカーに仕事をもらいに行き、塗料の原料となるパウダーの個詰めの仕事がほとんどだったそうです。ようやく仕事が軌道に乗り始め、1969（昭和44）年に法人に改組し、茨木塗料株式会社として茨木市の安威川奥地に安威川工場を開設し、塗料の生産をスタートさせました。

— 山口県、兵庫県に工場を開設

大阪には塗料メーカーが集中していたので、たくさんの仕事をいただけていました。安威川工場を稼働させて間もないころ、そのお付き合いのある会社より、「山口県でも塗料の生産を始めてみないか」と声がかかったそうです。中国地方は自動車や船舶といったものづくりが盛んでしたので、塗料の

需要があると判断し、1970（昭和45）年に山口県熊毛郡に柳井工場を設立しました。主に建材（合板）塗料の生産を開始し、その後も増設をおこない生産体制を拡大していきました。

余談ですが、今と違って昔は、車を大切にすることが多かったと思います。今の若い方でしたら、車に少し傷ができたとしても、そのまま修理をされない方がほとんどではないのでしょうか。当時は、車に傷ができたなら、自分でパテや塗料、コーティング剤を使って修理をしていた時代だったと思います。塗料はもちろんのことですが、そのパテやコーティング剤は、安威川工場生産をおこなっていました。

山口県での仕事が落ち着いたころ、大阪の安威川工場で二つの問題が発生しました。一つ目は、消防署より指導が入ったことです。安威川工場は、木造の工場だったため、消防法に触れてしまったのです。すぐ工場の建て直し等を検討しましたが、この後に二つ目の問題が発生します。安威川ダム建設による立ち退きの話でした。良かったのか、悪かったのか、結局この地での生産ができないとわかり、安威川ダムに収容されて撤退後、他の土地に移設をすることを決めました。しかし、移設先を見つけるのに、大変苦勞しました。先にも話したとおり、大阪は塗料メーカーがひしめき合っていましたの



■安威川工場閉鎖後に物流センター設立

安威川工場の閉鎖後、生産技術部門は本社に移管。そして、本社近くの大阪府茨木市東安威に物流センターを構えた。



■水性塗料製造に特化した平生工場設立

山口県にある柳井工場の近くに、水性塗料製造に特化した工場を2019年稼働（試作生産）を目指し、建設中。排水処理施設を設置し、環境に配慮したものづくりを目指す。

で、新たに工場を建てるのは難しかったのです。大阪でのお付き合いのある会社とは、引き続きやり取りのできる、そして山口県の柳井工場とも連携が取れる場所を求めました。その結果、兵庫県揖保郡が良いだろうと判断し、1980（昭和55）年に姫路工場を設立し、大阪の生産部門を移管しました。それから、柳井工場、姫路工場の2拠点を軸に、国内だけでなく海外の企業からも塗料等の製品の製造を一貫して受託生産をおこない続けています。



塗料の分散・攪拌工程

— 現場で進める5S活動。

チェックをするのはお客様

塗料の製造上、危険物を取り扱ったりもするので、どうしても「3K職場」というキーワードは避けては通れません。当社でも、もちろん気にかけていて、現場で安全に作業に取り組めるように、5S活動をおこなっています。正直に申し上げますと、やり始めたころは、まっ

たく思うようにいきませんでした。きちんと指導できる者がいない、定期的に管理できる体制が整っていなかったため、最初の音頭を取るだけで、定着させることができませんでした。そこで、考えたのが、取引先の企業による監査でした。

当社では、複数の取引先の企業がいらっしゃるので、その企業の数だけ監査がおこなわれます。その方々に現場を見ていただいて、5S活動の具合をチェックしてもらえば良いと思いついたのです。定期的に来られることから5S活動が日課となって定着し、そしていろいろな企業の方々から来られるので、様々な意見をもらえ、現場の作業員にとって良い刺激となりました。それ以降、現場は常に綺麗な状態を維持することができ、安全に取り組むことができている。その効果もあって、「3K職場」というイメージを少しは払拭できたのではと思っています。

— 時代は油性塗料から水性塗料へ

塗料・インキと言ってもその用途はペイント関連だけではなく、機能性塗料等にも使用されています。例えば、ビデオテープ等に使用される磁気用塗料や電車の切符をはじめとした多様な記録材がそうです。また、食品を包むフィルムにも使用されています。フィルムには、包むだけでなく食品の

賞味期限を長持ちさせる効果もあります。塗料・インキに使用する以外の目的は多岐に渡り、まだまだ幅広い活用性を秘めているのです。そして、時代は油性塗料から、水性塗料へと移行変わろうとしています。昔は水性塗料よりも油性塗料の方が、塗膜の強さ（輝き）がありましたが、技術進歩により今では違いはほとんど無くなりました。水性塗料は耐久性が低いといったデメリット等ではありますが、現代において環境や作業の安全性といったことが重視されますので、環境にも作業員にもやさしい水性塗料のメリットは決して無視できないものと言えます。これからの塗料業界の発展に貢献するために、どんなジャンルから、どんな要望があっても対応できるように、これからも歩み続けるつもりです。



塗料の基本色

— 貴重なお話をいただき

誠にありがとうございました